



☀️	なし
----	----

☁️	食品団地	景況は、事業者によって多少、受け止めが異なるが、全体的には前月と大きな変化は見られない。課題となるのが、度重なる仕入価格の値上がりと人手不足への対応。今後、さらに国際情勢の悪化などの影響により、エネルギーや原材料価格の高騰が懸念されること。
	テントシート	原材料の高騰について、販売価格への転嫁が出来つつあると思われるなか、本年2月1日より製品の値上げがあり(商品によるが0.05%~0.25%)、またまた厳しい状況である。このような状況のなか、付属品(ロープ類、ハトメ、ミシン糸)の値上げがある。
	木製品素材生産	2月期の原木出材量は、天候等にも恵まれ順調に入荷している。しかし、丸太価格については、依然として引合いはあるものの製材品の価格が上がらず全体的に横ばい状況。年度末となり、一部では請負事業等の終了に伴い、若干の減少があると思われるが、好天が続けば大きな影響はない。丸太価格については、一部(ヒノキ)で2月末頃より若干値下がりしてきているところであるが、全体的にはほぼ横ばいで推移している状況。今後については、市況の動向が見通せず大きな変動は見込めない。
	建具	年度末の公共工事は、小さな物件が少しあったが大型物件はなかった。一般住宅及び店舗物件は一進一退が続いている。ただ、来期に向けて小さな現場であるが見積りが出て来ている。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体としては、販売金額、販売量及び生産量は前年同月比で上回った。しかし、品目別では、雑種紙が販売金額及び販売量ともに前年同月比で上回ったのに対し、衛生用紙は販売金額及び販売量ともに下回った。
	製紙(手すき和紙)	今月、東京で開催した展示会も好評に終わり、売上にも貢献できた。少しずつ動きもみえてきたところだが、世界状況の混乱の影響に脅かされないか心配。
	生コンクリート製造	2月度の組合員の単月出荷量は、対前年比72.3%、4月からの累計出荷量も対前年比81.5%で前月に引き続き低調であった。また、地域的な傾向も前月同様な傾向であった。
	コンクリート製品	対前年同月比90.7%。県を中心に補正予算の発注がされており、今後も順調に推移すると考えている。
	刃物製造	今月も商品の出来上がり状況が順調で、売上を伸ばすことができた。ただ、受注生産分の品が多く、在庫の動きは少なかった。受注も適度にあり、あまり変動はない。
	機械団地	団地内の業況に変化はなく、売上や収益は横ばいの状況が継続している。今後、米国の通商政策の動向とともに、イラン情勢の緊迫化による日本経済への影響が懸念される。
	船舶製造	高水準の生産が継続している。
	珊瑚装飾品製造	2月度の取引額は前年同月比で66%となり、10カ月ぶりに前年を下回る結果となった。
	生鮮魚介卸売	2月は1年を通して一番カツオの入荷が少ない月である。ブリもやはり入荷が増えず大変である。3月からの初カツオに期待している。
	電気機械器具小売	全商品平均で前年比101.5%であった。前年比:白物家電102%、省エネタイプエアコン103%、4K8Kテレビ96%、リフォーム全額で98%であった。

☁️	中古自動車小売	中古車フェアをぢばさんセンターにて開催。来場者数も前年と比べ3割ほど多く、高年式車両の販売が好調。特に軽自動車の需要が高い。
	商店街(高知市)	2月の駐車場利用台数は、前年同月比100.5%(149台増)となった。要因として、東洋電化中央公園のイベント開催による集客効果が挙げられる。あわせて、料金収入は前年同月比108.4%(726万円増)となった。定期収入の増加が主な要因である。人流カメラによる集計では、2月の来街者数は前年同月比2.0%増となった。増加要因の一つとして、2月21日~22日に開催した「すこやかWinter」のイベント効果により来街者が増加した可能性が考えられる。
	商店街(四万十市)	しまんとびあ(総合文化センター)の記念イベントで商店街を利用してスタンプラリーを予定している。東下町では稲荷大祭を無事終了した。
	旅館・ホテル	宿泊・宴会共に昨年並に推移している。団体予約も入り好調である。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比115%、全旅クーポン合算後148%、令和7年度売上前年対比111%。今年度は予算を上回る収益を計上できる見通しである。高知県受託事業の取り組み成果が収益として反映された。
	IT事業	2月の売上は、前月比では1.43%減とほぼ横ばいとなったものの、前年同月比では28.57%増となり、過去5年平均を約6.9%上回る水準を維持している。当月は大口案件に加え、AI関連事業の売上が寄与し、一定の売上水準を確保する結果となった。社会全体でもAIの社会的影響や活用ルールを議論する国際会議が開催されるなど、AIを巡る議論は世界的に活発化している。IT業界ではAI需要の拡大を背景に、半導体やAIサーバーなど基盤技術の整備も進んでいる。当組合でも2月にAI事業の最前線で活躍するメンバーを囲んだ座談会を開催し、組合員間での情報共有と提案力の向上に取り組んでいる。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比275.4%となった。高知中央地区の298%をはじめ、県東部地区で大幅に増加した。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:100.7%、回数:100%、実働率:49.8%。昔から2月の水場は悪いと言われていた通り、会員皆口を揃えて言われている。新任運転者の登録も5人足らずで淋しい光景である。温かくなり、人手が多くなるので楽しみである。

☔️	酒類製造	日本酒市場の長期的な縮小傾向や原料米や資材、物流費の高騰による値上げなどを背景に売上は昨年より減少傾向にあるが、その中で輸出は比較的堅調な動きを見せている。
	製材	原材料費等の経費は上昇傾向にあり、収益状況は厳しいとの声が多い。
	印刷	先月は選挙特需により売上増、設備操業度も上昇したが2月度は以前の状況に戻った。特に県内需要及び官公需が低迷。県外需要は前年並みを維持した模様だが全般に厳しかった。
	卸団地	布師田に完成した大型チルド物流センターの稼働開始に伴い、既存の業務を一部失った。同様の状態が、県内の食品配送等の関連会社で発生しており、各社が対策に追われている。景気回復は感じられない。
	青果卸売	2月の取扱高は、組合員全体で前年対比88.8%となった。野菜の入荷数量は前年並だが単価がダウン。果物の入荷数量は前年より増えたが、単価が下がり結果として全体の取り扱い金額は振るわなかった。今年1月から2月までの累計でも92.9%となった。
	各種小売(四万十町)	2月も町内の景気動向に目立った動きはないが、確定申告により詳細な個店の状況が見えてきた。収入は各事業所横ばいもしくは減少といった状況で、高騰する物価上昇のおおりに受けて利益率が減少している。対策として特に仕入れの調整に取り組んでいる事業所が多く、在庫を極力減らしながら凌いでいる状況である。
	ガソリンスタンド	原油価格は少しずつ上昇となっているが、為替レートは円高に傾き全国平均ガソリン販売価格は少しずつ下がりが気味であったものの、2月中旬より値上がりへ転じた。中東でのアメリカ・イランの対応によってはまだまだ原油価格は値上がりし、市況への影響が出る予想となってきた。このまま続くと3月には大幅な値上げが予想される。特に免税軽油は一挙に大幅値上げとなるため注意が必要である。暫定税率が入っていない灯油・重油についても4月より補助金がなくなるため値上げと3月の原油価格上昇の値上げが重なり、大幅な値上げとなる。
	商店街(安芸市)	商店街にあるコミュニティセンターの建替えについて市が計画中とのこと。新施設には、サテライトオフィス・テレワーク機能を兼ねたコワーキングスペースも整備される予定。
	飲食店	集客は前年同月を下回る。販売価格は上昇しているので売上高は前年同月と同程度だが、物価高に価格転嫁が追い付いておらず、収益は悪化している。前年同月に比べ、インバウンド(大型客船)が激減しているため高知市中心街の集客が落ちている。前年同月に比べさらに物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	消費者の衣類カジュアル化、節約志向は強く、需要の減少傾向は続き、採算の合わない取次店など閉店も続いている。郡部地域に加え、高知市内の一部地域でもクリーニング所の空白地帯が現れている。店舗減少傾向に歯止めがかからず、危惧している。料金値上げは難しく、賃金、原材料の上昇は続いており、経営状態は厳しくなっている。リネン、ユニフォーム関連は好調を維持しているが、人手不足感強い。
	一般土木建築工事	工事の発注数は増えたように感じないが、工事内容によっては不調不落も散見される。
	一般貨物自動車運送	原油高騰、円安の影響で燃料価格が約4円上昇した。アメリカ、イスラエルのイランへの攻撃により更なる原油高騰が懸念される状態で、ドライバー不足、荷動きの鈍化など問題山積で年度末を迎えることとなりそうである。